



# い　ぶ　き

【学校教育目標】自律・尊重

令和7年9月30日 柏市立柏第八小学校  
学校だより第5号



## 認められ感…

先日、ある保護者の方に声をかけていただきました。「校長先生の書く『学校だより』、いつも楽しみにしています。先生の文章は、読んでいて心にしみます。」

嬉しかったですね。この歳になると、なかなか人さまにほめていただくという機会はありません。おほめの言葉、私の方こそ心に染み入りました。

「私はほめてもらって伸びるタイプです！」と言う人がいます。でも私はこう思います。

「人は皆、ほめてもらって伸びる」ものだと。「ほめる」と言うと、語弊があるでしょうか。「人は皆認められて成長する」と言い換えた方がよいかもしれませんね。

私が担任時代、家庭訪問先で、あるお母さんと話をしたときのことです。訪問の冒頭、私が学校でのひろし君（仮名）の活躍ぶりを話そうと思った矢先、お母さんが機関銃のごとく話始めました。

「先生、うちのひろしは本当にどうしようもないんです。何の取り柄もないんですよ。勉強はできないし、運動もできない。気の利いたこともできません。どうしたらいいですかね。先生。教えてください！このままだと先が思いやられます。」（本当はもっと長い話でした…。）私は圧倒されながらも、こう答えました。

「お母さん、そんなことはありません。ひろし君には人並外れたユーモアがあります。いつもクラスの様子を敏感に察して、ユニークなことを言ってはみんなを和ませてくれているんですよ。それって、誰にでもできることではありません。素晴らしい力だと思います。」

しかし、お母さんはこう続けました。

「先生、ユーモアなんて何の役に立つって言うんですか。そんなことは長所にも取り柄にもなりゃしませんよ。」

当時はまだ20代。駆け出しの教員だった私は、お母さんの迫力にたじろぎながらも、なんとかこう答えました。

「それでもひろし君は魅力的な子です。次にお母さんに会う時には、ひろし君の魅力と活躍について、たくさん伝えられるようになるように私もがんばります！」

なんとも話が噛み合わない、微妙な家庭訪問になってしまったことを今でもよく覚えています。

確かにひろし君は勉強にも運動にも秀でてはいませんでした。それでも、私にとってはどこまでも魅力的な男の子でした。そんな彼が頭角を現したのは、作文でした。その時に私が課したお題は「うそ作文」。うそ八百を並べて、ユニークな作文を書こうという趣向です。それが彼にはまりました。数々の昔話をベースにしながら、現代風の物語を創り上げました。それがおもしろいのなんの。私はクラスの子どもたちに読んで聞かせました。子どもたちは大爆笑。話が終わるやいなや拍手喝采でした。ひろし君は鼻の穴をふくらませて喜んでいました。それからというもの、彼は私たちの課題を待たずに、次々とユニークな「うそ作文」を創り続けました。「作文と言えばひろし君。」これが当時のクラスの子どもたちの合言葉となりました。ひろし君は自分の才能を開花させ、





クラスの皆から認められる存在となったのです。

月日は流れ、社会人となったひろし君は、放送作家になり、持ち前の創造力を生かしながら活躍していました。その後彼は、仕事を通じて「保険」の仕事に魅せられるようになり、一念発起し転職。今は、個人事業主として独立し、各種保険を取り扱い、顧客は日本全国に広がっているとのことです。また、コンサルタントとして、若手の人材育成にも尽力しています。

彼は46歳になった今でもこう言います。「人としての自信をつけてもらい、人生のベースとなったのは、あの時の『うそ作文』でみんなに認められたことです。あの時の自信が、その後の人生を切り拓く原動力になりました。」彼の言葉からもわかります。「人は認められることで自信を深め、意欲をもち、努力し、成長していく」のだということです。

子どもは皆、一人残らず、生まれながらにして成長の可能性を秘めています。ここで大切なのは「秘めている」ということです。今は見えていないかもしれないけれど、心と身体の中に成長の可能性が「潜んでいる」ということですね。可能性はいつか花開きます。私たち大人は、その時を待ちます。決して見逃さないように…。しかし残念なことに、多くの大人は子どもの成長の可能性の芽を見逃します。なぜか。「目が曇っている」からです。ではなぜ目が曇るのか。その大きな理由の一つは、「子ども同士を比較する」ことです。子どもを比較するとき、必ず大人の中には「比較するための物差し」があります。一つの物差しで比べる限り、そこには歴然とした「優劣」が生まれます。そこで「劣る」と評価された子どもの中にも、実は「別の物差し」で見ると素晴らしい可能性の芽があるのですが、残念なことに、一つの物差しに固執する大人の目に、それは映りません。こうして、「劣る」と評価された子どもは、認められるチャンスを失い、可能性が開花することなく、勇気と自信を挫かれ、埋もれていきます。

変わらなければならないのは、子どもではなく我々大人自身です。私たち大人が、子どもたちを見る目を養い、子どもたちの可能性の芽を見逃さず、たくさんの場面で認め励ますことができれば、子どもたちは必ず自信をつかみ、自らの力で成長していきます。これが、38年間の教員人生を通して私が確信した真実です。お互いにたくさんの物差しを持ち、全ての子どもたちの「認められ感」を満たし、やる気と希望の芽を育てていきたいのです。

## ◇ 10月の行事予定

日	曜日	行事予定	日	曜日	行事予定
1	水	2年 朝学読み聞かせ 4年 「ごみについて」出前授業 委員会活動	16	木	2年 校外学習(カンドウ) 給食試食会
2	木	全校朝会 なかよし活動①(昼休み) 5年林間学校保護者説明会(体育館/15:30)	17	金	3年 ステップアップ学習
3	金	5年 脊柱側弯症一次検診 3年 ステップアップ学習	21	火	3年校外学習(千葉県立房総のむら) 水泳学習(①4-2 ②1-2 ③4-3)
6	月	体力テスト 2~5年	22	水	クラブ活動①
8	水	ひまわり学級校外学習(手賀の丘公園) 3年 読み聞かせ 体カテスト 1, 6年	23	木	6年 キャリア教育「レイソルしま専科」
10	金	全学年5時間授業 三校合同引き渡し訓練(13:15~14:20) PTA 実行委員会(家庭科室/10:40~)	24	金	1年 校外学習(千葉市動物公園) 3年 ステップアップ学習
13	月	(祝) スポーツの日	29	水	4年 朝学読み聞かせ(4年) 委員会活動(11月分)
14	火	前期通知票配付日 クリーンボランティア 10:00	30	木	4年 校外学習 (千葉ポートパーク・千葉市科学館)